

訪日旅客の入国時利用空港に関する分析

高田 和幸¹・藤生 慎²

¹正会員 東京電機大学 理工学部建築・都市環境学系（〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂）

E-mail:takada@g.dendai.ac.jp

²正会員 東京大学生産技術研究所（〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1）

E-mail:fujiu@iis.u-tokyo.ac.jp

地域経済の再生施策の1つとして2003年からビジットジャパンキャンペーン（VJC）が実施された。その結果、来訪者数は堅調に増加し2012年度の来訪者数は917万人であった。この間、LCCによる国際線の運航が開始、オープンスカイ協定の締結、東南アジアの急激な経済成長による海外旅行の活発化、羽田空港の4本目の滑走路・国際線ターミナル運用開始など我が国の航空市場は大きな変化をしつつある。そこで本研究では、インバウンド観光による地方活性化戦略を立案するための基礎的分析として、来訪者の国籍別入国空港を定量的に分析することを目的とした。日本に入国するために利用する空港の多様化が進んでいることが明らかとなった。特に、韓国籍、中国籍の来訪者の利用空港は特定の空港に集中しておらず多様な空港を利用していることが明らかになった。

Key Words : inbound tourism, transition of airports of entry, market analysis, aviation

1. はじめに

地域経済の再生施策の1つとして2003年からビジットジャパンキャンペーン（VJC）¹⁾が実施された。その結果、来訪者数は堅調に増加し2012年度の来訪者数は917万人であった。この間、ジェットスター、エアアジア、ピーチアビエーションなどのLCCによる国際線の運航が開始され、現在では東南アジアを中心に12社²⁾が運航している。さらにオープンスカイ協定も積極的に結ばれ2010年以降、アメリカ、イギリス、オランダ、中国をはじめとして11か国と協定を結ぶに至っている。この背景には、東南アジアの急激な経済成長による海外旅行の活発化や羽田空港の4本目の滑走路と国際線ターミナル運用開始がある。以上のように我が国の航空市場は大きく変化しつつある。

一方、VJCの目的の1つである地域経済の再生を達成するためには首都圏のみならず、国土全般に訪日客を呼び込むことが必要である。近年、成田空港や関西国際空港などの主要な国際空港のみならず、新千歳空港や福岡空港などの地方の国際空港にも多くの来訪者がみられるが、訪日客の利用している空港に関する経年的変化は分析がなされていない。そこで本研究では、訪日旅客が入国時に利用した空港の経年的推移に着目した。

本研究に関連する研究事例として麻生³⁾、塩谷ら⁴⁾、平井⁵⁾、稲垣⁶⁾、沢⁷⁾がある。麻生は、経済時系列デ

ータを用いてインバウンドツーリズムの需要を分析し、外国人旅行者の訪日促進における問題、対策等を指摘している。塩谷らは、大都市社会資本への集中投資とアメニティ向上に重点を置いて大都市の魅力を高めるとともに、航空協定の自由化、外資規制の廃止による国際航空政策面でのオープン化によってコスト低下によるインバウンド観光客の増大の必要性を論じている。平井は、インバウンド観光と経済成長の間には関係があることを示し、東南アジアの経済成長は他国のインバウンド観光を支えていることを示している。稲垣は、地域におけるインバウンド観光の役割を論じており、地域活性化には国際化とともに地域の特徴を生かした観光プロモーションが必要であることを述べている。沢は、国際化によりインバウンド観光客を呼び込むことが地域生き残りの唯一の方法であることを論じている。以上、本研究に関連性の深い研究事例をレビューしたところ、地方の観光振興には国際航空施策のオープン化、コストの低下、国際化が必要であることが既往研究により示されているが、来訪者の入国空港に関する分析を行った研究事例は見当たらなかった。そこで本研究では、インバウンド観光による地方活性化戦略を立案するための基礎的分析として、来訪者の国籍別入国空港を定量的に分析することを目的とした。

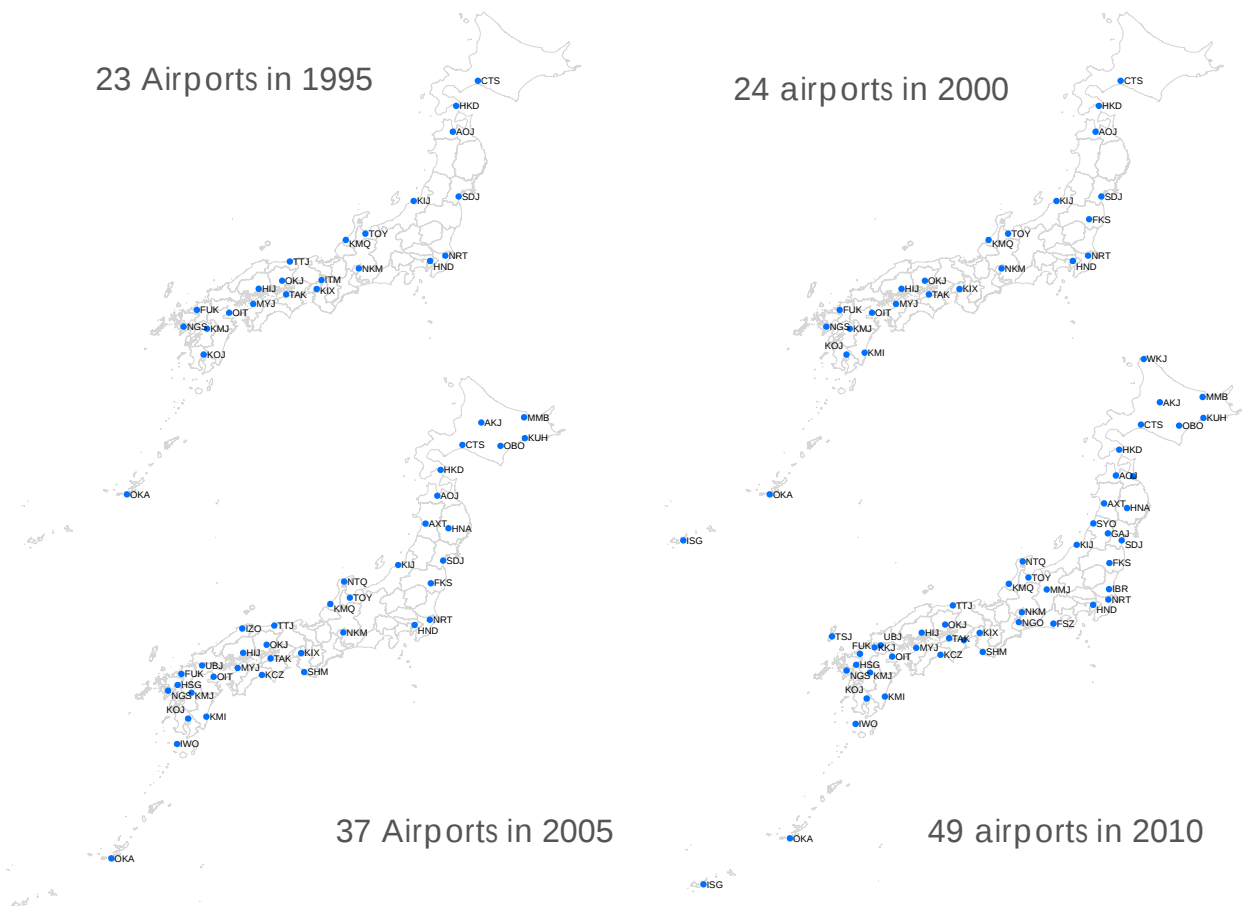


図-1 入国時に利用された空港の経年推移（外国籍入国者が100名以上あった空港）

2. 使用データ

国籍別入国空港の分析に使用したデータは、法務省入国管理局が取りまとめる出入国管理統計「港別 入国外国人の国籍」を用いた。分析に用いたデータの期間は、1995年度から2011年度の17年間である。なお、2006年度以前はデジタルデータで公開されていないため、筆者らがデータを整備した。

3. 入国港に関する分析

(1) 訪日客を受け入れた空港の分布

年間の外国籍の入国者数が100人以上いた空港の経年変化を調べた。図1は1995年から5年おきの変化を示す。1995年には23空港であったものが、2010年には約2倍の49空港まで増加している。国土全般に渡り、外国籍の入国があることが見て取れる。

(2) 訪日客の入国空港別割合

入国空港別訪日客割合を図2に示す。この結果から羽田空港や新千歳空港の割合が大きくなっていることがわ

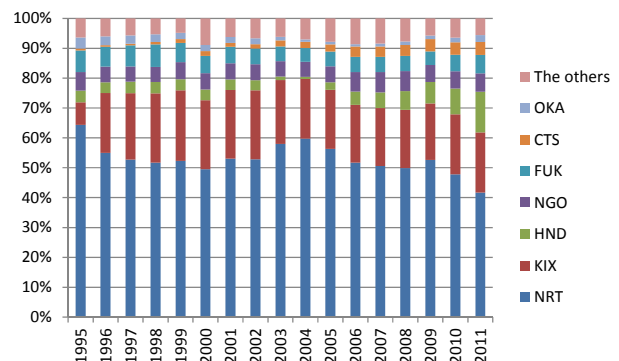


図-2 訪日客の入国空港別割合

かる。一方、成田空港の割合は減少、関西空港の割合は横ばい傾向が続いている。このことから成田空港への一極集中ではなく地方の国際空港からも多くの訪日客が入国していると推察される。

(3) 訪日客の入国空港の集中度

前節では訪日客の入国空港が大都市への集中から地方の国際空港に分散している可能性を示した。ここでは、ハーフィンダール・ハーシュマン・インデックス

(Herfindahl-Hirschman Index, HHI) を用いて訪日客の入国港が分散しているのかどうか分析を行った(図3)．HHIを1995年と2011年で比較すると0.46から0.25に大きく減少している．このことより訪日客の入国港は分散が進んでいることが明らかとなった．

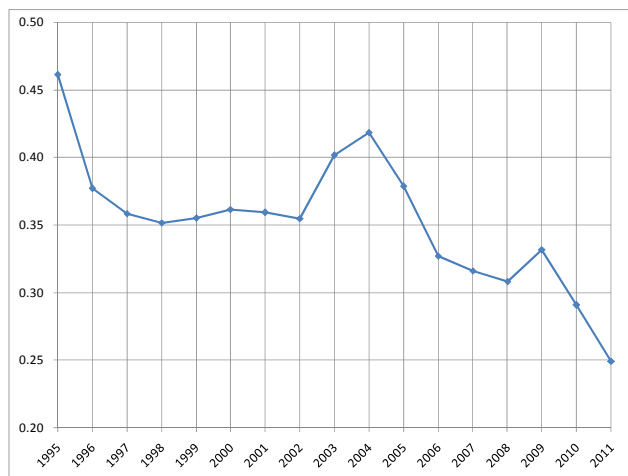


図3 入国空港の集中度

4. 入国者の国籍に関する分析

(1) 韓国国籍の訪日客の入国空港

韓国国籍を持つ訪日客の入国空港を図4に示す．2003年までほとんどが成田空港と関西空港であった．2003年以降は羽田空港や新千歳空港からの入国割合が大きくなっている．また，その他の空港からの割合も大きくなっている．このことから羽田空港，成田空港，関西空港を中心として全国の国際空港から入国していることがわかる．

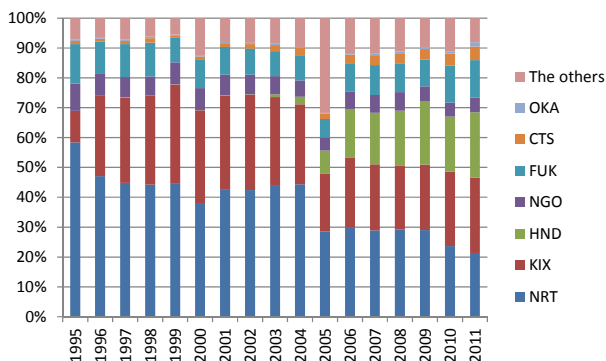


図4 韓国国籍の入国港

(2) 中国国籍の訪日客の入国空港

中国国籍を持つ訪日客の入国空港を図5に示す．羽田空港と新千歳空港からの入国が増加傾向であり，関西空港，中部国際空港，福岡空港，その他の空港ともに横ばい傾向である．このことから中国国籍の訪日客は，大消

費地に近い羽田空港，成田空港，関西空港を中心に入国している．

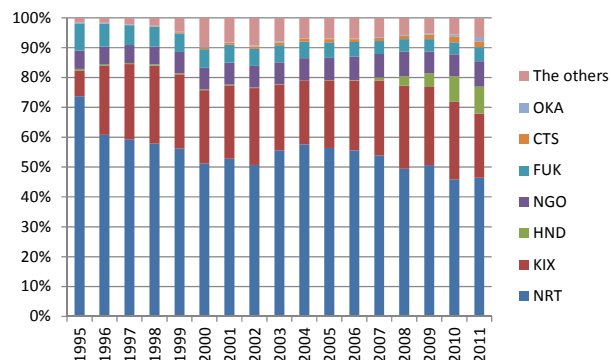


図5 中国国籍の入国港

(3) 台湾国籍の訪日客の入国空港

台湾を持つ訪日客の入国空港を図6に示す．台湾国籍の訪日客は韓国籍や中国籍の訪日客とは傾向が異なる．図より羽田空港や成田空港といった大都市に立地する空港からの入国の割合は韓国籍，中国籍の訪日客の割合と比較すると小さい．一方，中部国際空港，福岡空港，新千歳空港など地方の国際空港からの入国の割合が韓国籍，中国籍と比較すると大きい．

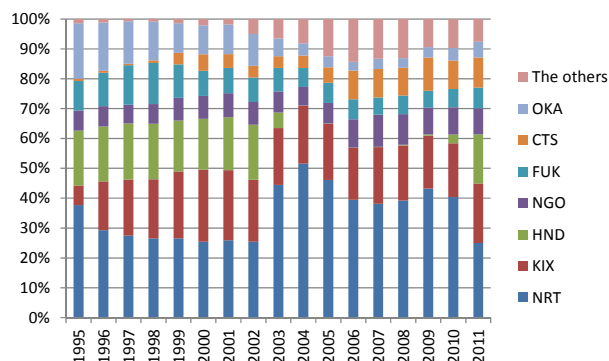


図6 台湾国籍の入国港

(4) アメリカ国籍の訪日客の入国空港

アメリカ国籍を持つ訪日客の入国空港を図7に示す．アメリカ国籍の訪日客は2010年までは約80%が成田空港からの入国であった．2011年以降は羽田空港と成田空港を合わせて約80%の割合であった．次いで関西空港からの入国であり，首都圏と関西圏を合わせるとその割合は約90%である．このことからアメリカ国籍の訪日客は，大都市に存在する国際空港から入国する割合が圧倒的に大きいことが明らかとなった．

(5) EU国籍の訪日客の入国空港

EU国籍を持つ訪日客の入国空港を図8に示す．EU国

籍の訪日客は2010年までは約70%が成田空港からの入国であった。2011年以降は羽田空港と成田空港を合わせて約75%の割合であった。次いで関西空港からの入国であり、首都圏と関西圏を合わせるとその割合は約90%である。このことからEU国籍の訪日客は、大都市に存在する国際空港から入国する割合が圧倒的に大きいことが明らかとなった。この傾向はアメリカ国籍の訪日客と同様の傾向であった。

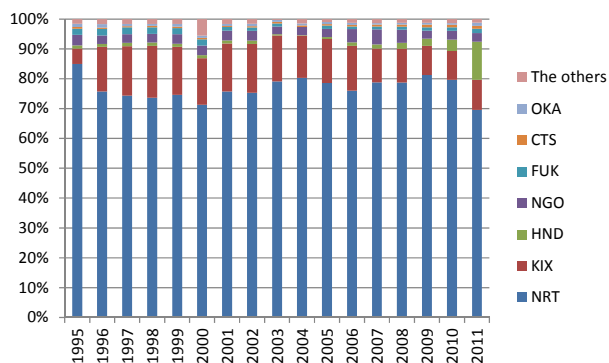


図-7 アメリカ国籍の入国港

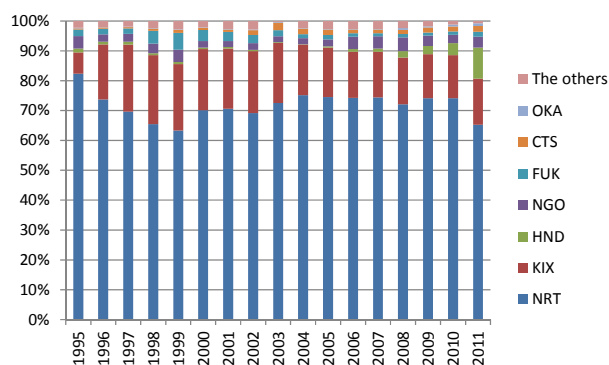


図-8 EU国籍の入国港

(6) 国籍別訪日客の入国空港の集中度

前節では韓国籍、中国籍の訪日客は入国空港が大都市への集中から地方の国際空港に分散している可能性を示した。ここでは、ハーフィンダール・ハーシュマン・インデックス (Herfindahl-Hirschman Index, HHI) を用いて訪日客の入国港が分散しているのかどうか分析を行った (図3)。中国籍の訪日客のHHIを1995年と2011年で比較すると0.55から0.29に大きく減少している。また、韓国籍の訪日客のHHIを1995年と2011年で比較すると0.39から0.19に大きく減少している。このことより中国籍と韓国籍の訪日客の入国港は分散が進んでいることが明らかとなった。

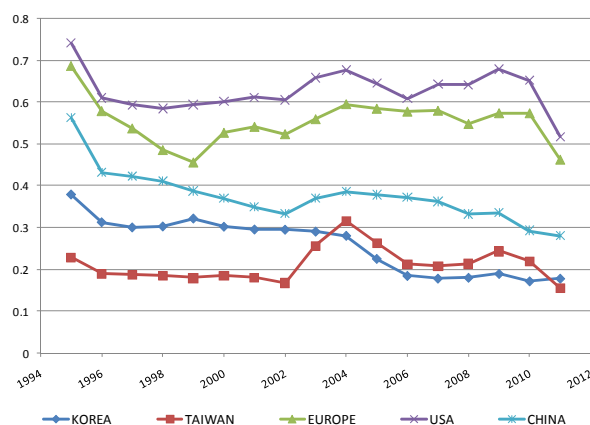


図-9 入国空港の集中度 (国籍別)

5. 空港別の入国者の国籍に関する分析

空港別の入国者の国籍について成田空港、羽田空港、関西国際空港、中部国際空港、福岡空港、那覇空港、新千歳空港を対象として分析を行った。

(1) 入国空港別・国籍別の割合 (福岡空港)

福岡空港における入国者の国籍別割合を図10に示す。図より中国籍と韓国籍の訪日客の入国割合が高くなっている。一方、台湾国籍の訪日客の割合は減少している。

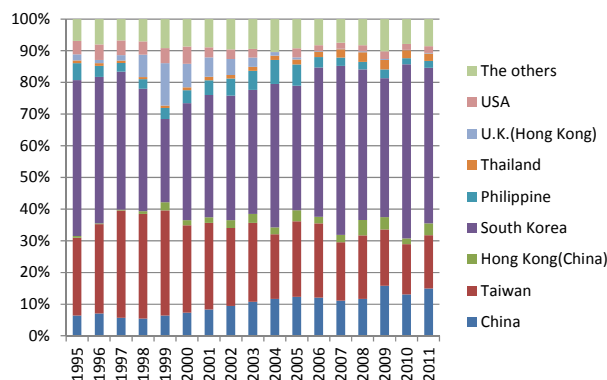


図-10 福岡空港における国籍別割合

(2) 入国空港別・国籍別の集中度 (成田空港)

成田空港における入国者の国籍別割合を図11に示す。図より中国籍と香港籍の訪日客の入国割合が高くなっている。一方、韓国国籍の訪日客の割合は減少している。

(3) 入国空港別・国籍別集中度

前節までに入国空港別・国籍別の入国者割合を示した。ここでは、ハーフィンダール・ハーシュマン・インデックス (Herfindahl-Hirschman Index, HHI) を用いて訪日客の国籍別入国空港別の集中度の分析を行った (図12)。羽

田空港と那覇空港では分散が進んでいる。一方、福岡空港では集中が進んでいる結果となった。

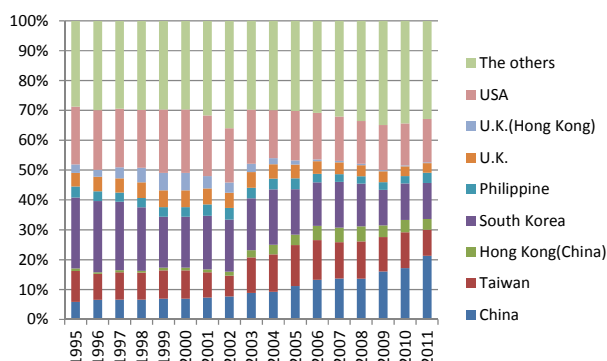


図-11 成田空港における国籍別割合

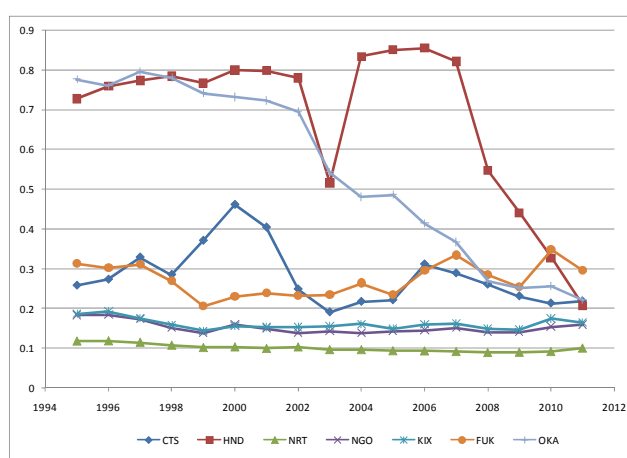


図-12 入国空港の集中度（国籍別）

6. まとめと今後の課題

本研究では来訪者の入国空港の特徴を出入国管理統計を用いて分析した。その結果、日本に入国するために利用する空港の多様化が進んでいることが明らかとなった。特に、韓国籍、中国籍の来訪者の利用空港は特定の空港に集中しておらず多様な空港を利用していることが明らかになった。空港別に来往者の国籍を調査したところ、羽田空港と那覇空港では多様化が進んでいることが明らかになった。しかし、来訪者の国籍の分布には大きな変化は見られなかった。

今後は、基礎的分析を踏まえて観光ビザ緩和や観光プロモーションによる入国者への影響などを分析する。

参考文献

- 1) 国土交通省，観光庁：ビジットジャパンキャンペーン HP
<http://www.mlit.go.jp/kankochou/>
- 2) トリップアドバイザーHP
<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000091.000001853.html>
- 3) 麻生憲一：日本のインバウンド・ツーリズムの需要分析：経済時系列データから捉えた訪日外国人旅行者数の動向，交通学研究，2000，113-124,231，2001
- 4) 塩谷さやか，中条潮：「観光立国」への疑問--インバウンド観光政策と関連交通政策におけるオープン化の必要性（統一論題観光と交通），交通学研究（49），31-40，2005
- 5) 平井貴幸：わが国におけるインバウンド観光と経済成長の関連性，国際開発学研究 11(2)，111-121，2012
- 6) 稲垣勉：地域におけるインバウンド観光の役割--国際化と地域アイデンティティ，観光文化 20(5)，16-17，1996
- 7) 沢功：国際化しなくては生き残れなかった（特集 アジアからのインバウンド-1-），月刊観光（377），22-25，1998

(2013.8.2 受付)

ANAYSIS OF THE TRANSITION OF AIRPORTS OF ENTRY IN JAPAN

Kazuyuki TAKADA and Makoto FUJIIU

Recently, inbound tourism has been encouraged by Japanese national policy. Moreover, international air markets have been proactively set up by LCC and charter flights. Therefore, airports of entry for foreign visitors arriving in Japan have been diversified. Meanwhile, it is necessary to comprehend the visitor's attributes and the characteristics of visit in order to tie the inbound tourism to revitalization of the surrounding region of the airport of entry.

Then, this study focused on the transition of airports of entry in Japan and also the relation between geographical location of airports of entry and the visitor's attributes such as nationality. In this study, "Statistical Survey on Legal Migrants" published by the Ministry of Justice" was utilized since this statistics can provide the information on visitor's nationality for all airports of entry in Japan. As the results, it became clear that the diversification of the airports of entry has recently progressed and that the nationality of the foreign visitors greatly varied according to airport. It became clear that each airport make an original market strategy in order to promote the inbound tourism surrounding the airport.